

令和5年度

消防本部 総務課の方針書

組織名	消防本部 総務課
所属長名	高田 俊之

1. 組織の使命(ありたい姿)

誇りと意欲を持って職務に当たり、迅速・的確に業務を遂行できる環境づくりと人材育成を推進し、市民の負託に応えます。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、公務災害・事故防止、健康管理の推進
- 2、資格取得、職員研修など人材育成の継続
- 3、災害対応力の向上

3. 今年度の『スローガン』

「安全 確実 迅速」 ～ 誇りを持って～

4. 今年度の方針

- 1、安全確実な業務の推進
- 2、市民から信頼される消防職員の育成と人材確保
- 3、消防団活動の充実と消防力向上

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	安全確実な業務の推進
	取組内容	1、心身ともに健康で士気の高い職場環境の推進 2、公務災害・事故防止の推進
(2)	実現したい成果	市民から信頼される消防職員の育成と人材確保
	取組内容	1、消防職員としての服務規律の遵守、倫理観の醸成 2、消防業務に必要な資格取得、職員研修の推進 3、真摯に消防職員を目指す人材の確保
(3)	実現したい成果	消防団活動の充実と消防力向上
	取組内容	1、消防団の消防力向上と連携強化 2、消防団協力事業所、消防団応援の店事業の推進など消防団活動の魅力向上 3、高機能消防指令センター更新事業の支援(通信指令室との連携)

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 安全確実な業務の推進
 - ・惨事ストレス予防ミーティングの推進とフォローアップの実施。
 - ・各所属長が出席する安全衛生ミーティングを定期的に行い、組織全体で目標設定、対策等の共有と安全意識の向上に取り組み、公務災害、交通事故とも上期無事故を達成。
- (2) 市民から信頼される消防職員の育成と人材確保
 - ・各所属長とのミーティングを通じてコンプライアンス意識や倫理観等について自覚を促し、個々の職員が誇りと使命感をもって職務にあたることができるよう育成。
 - ・消防学校初任教育3名・消防操法指導員講習3名、幹部教育2名、救急救命東京研修1名が修了したほか、移動式小型クレーン免許2名、玉掛け免許2名、小型船舶免許1名が取得済、大型自動車免許1名が取得中。
 - ・職員採用試験に向けた広報と一次試験の実施。
- (3) 消防団活動の充実と消防力向上
 - ・各地域消防訓練大会、支部大会・県大会、水防講習会、救命ボート操作訓練など各種訓練を実施。
 - ・高機能消防指令センター実施設計の支援を実施。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 安全確実な業務の推進
 - ・要再検診職員に対する受診勧奨と惨事ストレス対策の継続など健康対策を推進。
 - ・目標、対策等の共有、安全意識の醸成とともに、関係課署と連携し運転技術の向上を図りながら安全、確実、迅速な業務を継続。
- (2) 市民から信頼される消防職員の育成と人材確保
 - ・所属長を通じて職員の自覚を深め、高い使命感で職務にあたることができるよう育成を継続。
 - ・消防学校専科教育(救助科、警防科、火災調査科、危険物科、特殊災害科、救急科など13名)、惨事ストレス初級研修1名、消防緊急自動車運転技能研修1名の履修、大型自動車免許1名、潜水士免許2名の取得など教育訓練、資格取得を推進。
 - ・職員採用二次試験の実施、真摯に消防職員を目指す人材の確保(概ね4名)。
- (3) 消防団活動の充実と消防力向上
 - ・消防団員教養研修、機関員研修など各種教育訓練を通じた消防力の向上と出初式、火災予防運動など消防団活動を通じた団員の士気向上や地域への安心感の提供。
 - ・消防団協力事業所、消防団応援の店の加入事業所増加に向けた広報活動の実施。
 - ・来年度の高機能消防指令センター更新に向けた実施設計の支援継続。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 安全確実な業務の推進
 - ・要再検診職員に対する受診勧奨により再受診率100%をフォローしたほか、惨事ストレスミーティングの励行や全職員を対象としたメンタルヘルス研修会を実施するなど心身の健康対策を推進。
 - ・各所属長等が出席する安全衛生ミーティングを定期的に行い、公務災害ゼロを継続。
 - ・引き続き、組織全体で安全、確実、迅速な業務を推進していく必要がある。
- (2) 市民から信頼される消防職員の育成と人材確保
 - ・所属長を通じて、消防職員としての自覚を深め、高い使命感で職務にあたることができる人材育成を継続。
 - ・消防学校での教育研修(初任教育、幹部教育、救助科、警防科、特殊災害科、救急科、火災調査科、危険物科など)で延べ26名、惨事ストレス初級研修を1名履修したほか、大型自動車免許1名、移動式小型クレーン免許2名、玉掛け免許2名、小型船舶免許1名、潜水士免許2名の取得など教育訓練と資格取得を推進。
 - ・令和6年度の新規職員6名を採用。
 - ・引き続き、人命救助、災害対応のプロとして職責に誇りを待って業務にあたり、専門分野の知識と技術を高め、市民の信頼と期待に応える職員を育成していく必要がある。
- (3) 消防団活動の充実と消防力向上
 - ・消防団員教養研修、機関員研修など各種教育訓練を通じた消防力の向上と出初式、火災予防運動など消防団活動を通じた団員の士気向上や地域への安心感を提供。
 - ・消防団協力事業所、消防団応援の店の加入事業所増加に向けた広報活動を実施。
 - ・高機能消防指令センター更新工事に向けて令和6年度から2か年の事業費を計上。
 - ・引き続き、消防団との連携を深め地域防災力を強化するとともに、人材育成や施設整備を推進するなど消防力の向上を図っていく必要がある。

令和5年度

消防本部 予防課の方針書

組織名	消防本部 予防課
所属長名	中川原 宏

1. 組織の使命(ありたい姿)

誇りと意欲を持って職務に当たり、迅速・的確に業務を遂行し市民の負託に応える。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、防火対象物の消防設備違反の是正
- 2、住宅用火災警報器の設置推進
- 3、職員の能力向上

3. 今年度の『スローガン』

「安全 確実 迅速」～誇りを持って～

4. 今年度の方針

- 1、消防設備違反の是正
- 2、住宅用火災警報器の設置推進
- 3、職員の能力向上

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	消防設備違反の是正
	取組内容	1、防火対象物重大違反の早期把握と違反処理の執行 2、大型公共施設をはじめとする市施設の適切な防火管理の推進
(2)	実現したい成果	住宅用火災警報器の設置推進
	取組内容	1、住宅用火災警報器の設置調査に基づき設置推進活動 2、住宅用火災警報器の設置世帯への機器維持管理広報
(3)	実現したい成果	職員の能力向上
	取組内容	1、予防課、各署予防係が情報共有し、予防事務の確実な処理とデジタル化の推進 2、職員の能力向上をめざした職員に対する研修会の実施

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

(1) 消防設備違反の是正

- ・年度当初の重大違反対象物4施設のうち、3施設が改善、新たに4施設が増加、現在の重大違反対象物5施設。
- ・大型公共施設の適切な防火管理のため、関係部署と事前協議5回、メール協議31回実施。
- ・既設の市施設の防火管理については5施設が改善。

(2) 住宅用火災警報器の設置推進

- ・昨年度まで実施した調査結果をもとに未設置451世帯へ広報活動を実施。
- ・高齢者との座談会「いきいきサロン」に9回出向し、延べ120名の参加者に設置推進と維持管理の広報を実施。
- ・商業施設のイベントに参加し、120名の参加者に維持管理等の広報を実施したほか、市報による広報を1回実施。

(3) 職員の能力向上

- ・本部予防課、各署の予防担当の情報共有のため、「報連相」を徹底。
- ・4月以降、予防業務関係書類はすべて電子決裁するとともに、オンラインによる受付申請4業務を開始。
- ・本部予防課と各署予防担当が合同で実施する消防設備検査、危険物施設検査などを通じて、予防課職員による若年職員、経験の少ない職員に対する現地指導を16回実施。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1) 消防設備違反の是正

- ・重大違反対象物5施設については、違反是正に向け関係者とのさらなる協議を重ね重大違反対象物ゼロを目指す。
- ・大型公共施設の適切な防火管理に向けて、事前協議等を通じて指導を継続。
- ・既設の市施設については、関係施設に対して適切な防火管理維持について指導を継続。

(2) 住宅用火災警報器の設置推進

- ・下期においても、調査結果をもとに未設置世帯へ訪問し広報活動を実施。
- ・維持管理広報については、設置広報とあわせ座談会、チラシ配布、かまくらFM、訪問活動など様々なツール活用し実施。

(3) 職員の能力向上

- ・下期においても、本部予防課、各署予防担当の情報共有のため、「報連相」の徹底を継続。
- ・各署すべての書類の確実な電子決裁を継続するとともに、受付業務において更なるオンライン申請を構築。
- ・すべての検査を各署単独で実施できるように、引き続き予防課職員による現地指導を継続するとともに、火災調査については、2年間実施した研修の集大成として実技を含んだ総合的な研修を実施。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

(1) 消防設備違反の是正

- ・消防設備の重大違反が8施設の内(新たに違反4施設を含む)7施設が是正となった。残り1施設についても是正に向け工事中である。
- ・大型公共施設の適切な防火管理に向けて関係部署と事前協議9回、メール協議60回実施。次年度は建設工事が開始となるため、関係部署とさらに協議する。
- ・既設の市の施設については、7割が是正又は、是正に向けて改修計画書が提出されており、今後は3割の施設の早期是正に向けて関係部署と協議していく。

(2) 住宅用火災警報器の設置推進

- ・調査結果をもとに未設置1260世帯へ広報活動を実施。
- ・高齢者との座談会「いきいきサロン」に24回出向し、延べ311名の参加者に設置推進と維持管理の広報を実施したほか、かまくらFM放送2回、市報掲載4回、チラシ配布を2回を実施するなど広報活動を推進した。
- ・今後も広報活動を通じて住宅用火災警報器の設置推進と適正な維持管理を啓発していく必要がある。

(3) 職員の能力向上

- ・本部予防課、各署予防担当の情報共有のため、「報連相」の徹底を継続していく。
- ・予防業務関係書類の確実な電子決裁を継続するとともに、オンラインによる受付申請を5業務開始した。今後もさらに拡充していく必要がある。
- ・本部予防課と各署予防担当と合同で実施した消防設備、危険物施設検査にて40回の現地指導を実施、火災調査においても20回の指導を実施したほか、実技を含めた総合的な研修会を実施し職員の知識、技術の向上を図った。
- ・今後は、各種消防設備、危険物施設検査、火災調査を各署に移管し実施していく。

令和5年度

消防本部 警防課の方針書

組織名	消防本部 警防課
所属長名	中川原 一智

1. 組織の使命(ありたい姿)

誇りと意欲を持って職務に当たり、市民の生命、身体、財産を災害から保護する。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、安全管理体制の強化と人材育成
- 2、災害対応力の向上
- 3、車両及び資機材等の適正な維持管理

3. 今年度の『スローガン』

「安全 確実 迅速」 ～ 誇りを持って～

4. 今年度の方針

- 1、安全管理体制の強化と人材育成
- 2、災害対応力と組織力の向上
- 3、災害に強いまちづくりのための消防施設整備

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	安全管理体制の強化と人材育成
	取組内容	1、安全管理体制の強化に向けた指揮隊運用訓練の実施 2、機関員の計画的育成と資格保有者の技能向上 3、特別救助隊員の育成と技術の向上
(2)	実現したい成果	災害対応力と組織力の向上
	取組内容	1、各種災害を想定した訓練の実施 2、消防団との連携強化
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくりのための消防施設整備
	取組内容	1、消防署、消防団の車両、資機材等の更新と適正な維持管理 2、消防水利の計画的な整備と維持管理

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1)安全管理体制の強化と人材育成
 - ・梯子車、救助工作車等特殊車両の新規機関員8名を養成。
 - ・危険度の高い任務にかかわる特別救助隊員の養成研修及び、あらゆる事案を想定した救助訓練の実施。
- (2)災害対応能力と組織力の向上
 - ・各所属の訓練計画に基づいた火災・救助・救急訓練を実施。
 - ・消防団と連携し救命ボートの操船訓練を実施。
- (3)災害に強いまちづくりのための消防施設整備
 - ・消防署車両2台、消防団車両6台、消防団小型ポンプ1台の更新について契約締結。
 - ・消防団ポンプ置場2棟、自動車ポンプ置場1棟建替えについて契約締結。
 - ・耐震性貯水槽建設2基、耐震性貯水槽測量設計業務委託1基について契約締結。
 - ・消防団車両、資機材等について毎月点検を行い維持管理を実施。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1)安全管理体制の強化と人材育成
 - ・現場活動での怪我や事故0を目指し、新規小隊長を対象とした指揮隊運用訓練を実施し安全管理体制を強化する。
 - ・分署に勤務するはしご車機関員有資格者を対象に習熟訓練を実施し、はしご車の運用基盤を強化する。
 - ・組織体制の永続的な維持強化を目的に、新規特別救助隊員4名、水難救助隊員6名を養成する。
- (2)災害対応能力と組織力の向上
 - ・各隊の活動内容や手順を再確認するため化学災害対応訓練を実施するほか、建物火災において、安全で効果的な消火活動を実現するため、排煙、進入、放水、人命検索等の各種訓練を強化する。
 - ・消防団との更なる連携を図るため、合同車両破壊訓練を実施する。
- (3)災害に強いまちづくりのための消防施設整備
 - ・消防署車両2台、消防団車両6台、消防団小型ポンプ1台の更新配備。
 - ・消防団ポンプ置場2棟、自動車ポンプ置場1棟の完成。
 - ・耐震性貯水槽2基、耐震性貯水槽測量設計業務委託1基の完成。
 - ・消防団車両、資機材等について点検結果を基に修繕等を行い、随時的確な維持管理を継続。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1)安全管理体制の強化と人材育成
 - ・新規小隊長を対象とした指揮隊運用訓練を実施し安全管理体制の強化を図り、現場はもとより訓練においても公務災害ゼロを達成した。次年度以降も継続し組織体制の維持強化を図っていく。
 - ・22名の新規機関員を養成すると共にはしご車機関員有資格者の習熟訓練を実施し、車両運行体制の強化を図った。次年度以降も養成を継続すると共に運用技術の向上と併せ、道路、水利、建物等の管内状況把握に力を入れ、機関員の資質向上を図っていく。
 - ・特別救助隊員2名、水難救助隊員6名の新規隊員を養成した。今後も新規隊員の養成と共に、各種訓練を通して隊員の資質向上を図り、難易度の高い任務に安全・確実・迅速に対応できる隊員を育成していく。
- (2)災害対応能力と組織力の向上
 - ・化学災害対応訓練を実施したほか、建物火災において、安全で効果的な消火活動を実現するため、排煙、進入、放水、人命検索等の各種訓練を実施した。また、実際に山岳を登行し急傾斜地から救助した傷病者をふもとまで搬送する山岳救助訓練を実施するなどし、災害対応力の向上を図った。次年度も各種想定訓練を継続し災害対応能力の向上を図っていく。
 - ・救命ボートの操船訓練や合同車両破壊訓練を実施し、消防団との連携を図った。次年度も各種災害対応はもとより、様々な訓練を通じて連携強化を図っていく。
- (3)災害に強いまちづくりのための消防施設整備
 - ・消防署車両1台、消防団車両6台、消防団小型ポンプ1台の更新を完了し運用を開始している。消防署車両1台については、世界的な部品供給不足等により納入が次年度に延伸となったが、運用開始に向けて着実に事業を進めていく。また、車両、資機材等について随時的確な維持管理を継続し、災害に強いまちづくりのため適切な運用を行っていく。
 - ・耐震性貯水槽2基、耐震性貯水槽測量設計1基が完成したほか、消防団ポンプ置場2棟、自動車ポンプ置場1棟も完成し運用を開始している。
 - ・水道未普及解消事業に伴う消火栓の更新は2基完了している。また、国道及び県道拡幅に伴う消火栓の更新は2基完了している。次年度も資材の高騰や物品調達の遅れなど、予想される様々な状況に適切に対応し事業を進めていく。

令和5年度

消防本部 救急課の方針書

組織名	消防本部 救急課
所属長名	松井 洋悦

1. 組織の使命(ありたい姿)

誇りと意欲を持って職務に当たり、市民の信頼と期待に応える。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、救急活動における事故防止
- 2、救急隊員教育の充実
- 3、イベントの開催と啓発活動

3. 今年度の『スローガン』

「安全 確実 迅速」 ～ 誇りを持って～

4. 今年度の方針

- 1、救急活動における事故防止対策の徹底
- 2、救急隊員教育の充実強化
- 3、救急関連イベントを通じた隊員教育と救急活動の啓発推進

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	救急活動における事故防止対策の徹底
	取組内容	1、救急車両運行上の交通事故防止対策 2、救急処置等活動上の事故防止対策
(2)	実現したい成果	救急隊員教育の充実強化
	取組内容	1、指導救命士による救急隊員教育訓練の強化 2、救急隊員研修計画を活用した救急隊員訓練の充実 3、医学会、研修会等への参加と積極的な症例発表による教育の推進
(3)	実現したい成果	救急関連イベントを通じた隊員教育と救急活動の啓発推進
	取組内容	1、秋田県救急隊員セミナーの開催 2、救急フェア、救急のつどいなど、市民向けイベントによる救急活動の啓発推進

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 救急活動における事故防止対策の徹底
 - ・救急車両交通事故防止に向けた座学・実技訓練により運転技術の習熟と安全意識の向上を図り上半期無事故を達成。
 - ・救急処置事故防止訓練により活動要領の習熟と技術向上を図り上半期無事故を達成。
- (2) 救急隊員教育の充実強化
 - ・指導救命士を中心としたPDCAサイクルに基づく教育訓練と、新任救命士養成に向けた訓練計画の作成及び個別訓練の開始。
 - ・救急隊員管理票で設定された訓練種目や時間に基づく救急訓練を計画どおりに実施。
 - ・医療機関の症例検討会、学術集会、救急WEB講習会等への積極的な参加。(上期8回、147名受講)
- (3) 救急関連イベントを通じた隊員教育と救急活動の啓発推進
 - ・「秋田県救急隊員セミナー」を開催し、症例発表や情報交換を通じた研鑽とともに県内医療機関関係者や救急隊員との連携を強化。(参加者約300名)
 - ・「救急フェア・救急のつどい」を開催し、医師による講演や消防職員による応急手当普及啓発寸劇等を通じて事故防止や救急活動を市民に啓発。(参加者約400名)

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 救急活動における事故防止対策の徹底
 - ・積雪期の交通安全対策を重点とした事故防止訓練や日常訓練を通じて安全、確実、迅速な運行を継続。
 - ・隣接署との合同訓練による救急活動要領と事故防止対策の共有を通じて安全、確実、迅速な救急活動を継続。
- (2) 救急隊員教育の充実強化
 - ・指導救命士を中心とした教育訓練の継続と救急現場で活躍できる新任救命士の養成。
 - ・救急隊員管理票で設定された訓練種目や時間に基づく救急訓練の完全実施。
 - ・救急症例、研究等の発表や救急研修会等への参加の推進。
- (3) 救急関連イベントを通じた隊員教育と救急活動の啓発推進
 - ・「わくわく消防広場」などの市民イベントや救命講習会等を通じた救急活動の啓発を継続。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 救急活動における事故防止対策の徹底
 - ・救急車両の物損事故が1件発生した。事故原因を分析のうえ、管轄管内の道路事情を一斉点検にて再確認すると共に、職員間の情報共有を徹底し再発防止に努めることとした。
 - ・救急処置等活動上の無事故を達成した。今後も救急処置事故防止訓練など対策を継続し、次年度以降も無事故の救急活動とする。
- (2) 救急隊員教育の充実強化
 - ・救急隊員教育の企画立案から実施指導まで、年間を通じ指導救命士が中心となり訓練を実施し救急隊員の資質が向上した。次年度もPDCAサイクルに基づく教育訓練を継続していく。
 - ・今年度の救急隊員研修は、救急隊員教育管理表を活用して進捗状況を確認しながら実施した。その結果、全救急隊員が目標回数及び目標時間に達している。次年度も管理表を有効に活用しながら、救急隊員教育の充実強化を図る。
 - ・全国救急隊員シンポジウムにおける研究発表をはじめ、各種学術集会及び症例検討会で多数発表を行い、救急隊員の教育推進が図られた。次年度も6月に開催される東北救急医学会に演題3例を応募し発表の準備を進めている。
- (3) 救急関連イベントを通じた隊員教育と救急活動の啓発推進
 - ・当消防本部が担当し開催した「第28回秋田県救急隊員セミナー」では、医療関係者及び県内各消防本部の救急隊員と情報交換を行うことで、救急医療の知識と技術の習得に加え相互の連携強化につながった。
 - ・「救急フェア・救急のつどい」を4年ぶりに集合開催し、講演や応急手当普及啓発寸劇等を通じ救急活動を広く市民に啓発した。次年度も市民福祉部と連携し開催につなげたい。

令和5年度

消防本部 通信指令室の方針書

組織名	消防本部 通信指令室
所属長名	竹澤 全元

1. 組織の使命(ありたい姿)

市民の助けをを求める通報に、迅速・確実に対応し、市民の負託にこたえます。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、災害通報対応とシステム運用技術の向上
- 2、通信指令施設の安定稼働と充実強化
- 3、多様化する災害通報等への対応

3. 今年度の『スローガン』

「安全 確実 迅速」 ～ 誇りを持って～

4. 今年度の方針

- 1、市民から信頼される通信指令員の育成
- 2、高機能消防指令センターの適切な保守管理と更新事業の推進
- 3、わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民から信頼される通信指令員の育成
	取組内容	1、システム障害時の対応訓練や外国人対応など各種訓練によるシステムの精通と対応力向上 2、119番通報対応におけるコミュニケーションスキルの向上 3、応急手当口頭指導要領、緊急度判定要領の向上
(2)	実現したい成果	高機能消防指令センターの適切な保守管理とシステム更新の推進
	取組内容	1、指令システムやデジタル無線システムの適切な保守管理 2、高機能消防指令センター更新に向けた実施設計と更新工事の推進 3、地図情報などシステム情報の適切なアップデート
(3)	実現したい成果	わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
	取組内容	1、高齢者や外国人など市民に対するわかりやすい119番通報のかけ方の啓発 2、障がい者に対する緊急通報システムの啓発 3、携帯電話等からの自動通報に関する啓発

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 市民から信頼される通信指令員の育成
 - ・各種計画訓練の毎日実施。
 - ・各種情報、対応要領の可視化による共有、引継の徹底。
 - ・市民の心肺蘇生実施率73%。(令和4年度76%)
 - ・救急通報対応要領向上のための救急救命士による指令員への助言と教育の継続。
- (2) 高機能消防指令センターの適切な保守管理とシステム更新の推進
 - ・指令・無線システムの年次点検、機器更新(災害情報案内サービス)業務委託の完了。
 - ・高機能消防指令センター更新へ向けた実施設計業務委託の契約締結。
 - ・住宅調査等による地図情報の更新。
- (3) わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
 - ・「いきいきサロン」による高齢者への通報要領の啓発。(9回120名参加)
 - ・NET119緊急通報システム、新規加入者1名。(計9名)
 - ・新規障がい者手帳交付者等に対するNET119緊急通報システムの希望調査(対象者40名)の実施。
 - ・携帯電話等からの自動通報に関する啓発チラシの配布。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 市民から信頼される通信指令員の育成
 - ・多様な通報に対応するため、外国人対応訓練の計画及び実施と各種計画訓練を継続。
 - ・更なるスキルアップのために、県主催通信指令員研修への参加及び研修受講者によるフィードバック教育の実施や救急救命士による指令員へのOJT継続。
 - ・ヒューマンエラー回避ため確実な情報共有、引継の継続。
- (2) 高機能消防指令センターの適切な保守管理とシステム更新の推進
 - ・消防指令センターの安定稼働をはかるため、各種システムの適切な保守管理と運用の継続。
 - ・来年度の更新工事着手に向けた新高機能消防指令センター仕様書の完成。
- (3) わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
 - ・災害弱者の安心、安全のために、「いきいきサロン」による高齢者への通報要領の啓発推進。(13回開催予定)
 - ・上期に実施した、NET119緊急通報システムの希望調査結果に基づき、利用希望者に対する個別説明の実施。
 - ・携帯電話等からの誤通報減少を目指し、自動通報機能に関する啓発チラシの配布継続。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 市民から信頼される通信指令員の育成
 - ・各種訓練の毎日実施、所属救急救命士のOJTによる教育指導、外国人対応要領訓練の実施、県主催の通信指令・口頭指導研修会への参加者による教育を通じて、事案対応能力や応急手当口頭指導能力の向上がみられた。
 - ・次年度も通信指令員のスキルアップを目指し、年間を通じて市民から信頼される通信指令員の育成を行う。
- (2) 高機能消防指令センターの適切な保守管理とシステム更新の推進
 - ・定期の自主点検、保守管理契約による障害対応、機器の更新、住宅調査による地図の更新などを通じて、各システムの適切な運用を継続したほか、障害発生時の対応計画についても随時整理し、各所属と一体的な対応につながっている。
 - ・高機能消防指令センターの更新について、設計業者との協議を重ね、令和6年度当初予算に事業費を計上した。
 - ・引き続き、適切なシステム管理とともに、高機能消防指令センター更新事業については、将来に向け安定した消防指令体制と消防力強化につながるよう事業を進めていく必要がある。
- (3) わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
 - ・高齢者に対する「いきいきサロン」(延べ参加者311人)を通じて、わかりやすい119番通報のかけ方を啓発したほか、外国人からの通報にかかる三者通訳訓練を実施し、対応能力の向上につながった。
 - ・聴覚障がい者等の電話リレーサービスの利用に関するチラシの各地域局窓口への配布や、ホームページによる広報を実施したほか、NET119緊急通報システムの利用案内を推進し、新たに4名が登録し、延べ12名となった。
 - ・携帯電話等からの自動通報にかかる誤通報の防止啓発のチラシを研修会や講習会で配布し、減少傾向にある。
 - ・次年度も災害弱者の安心、安全のために高齢者への通報要領の啓発、聴覚・言語機能に障がいのある方のためNET119緊急通報システム等の各種通報手段の啓発を実施していく。

令和5年度

消防署の方針書

組織名	消防署
所属長名	中川原一智

1. 組織の使命(ありたい姿)

誇りとプロ意識を持って災害に立ち向かい市民を護る。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、安全確実な業務遂行
- 2、人材の育成
- 3、災害に強いまちづくり

3. 今年度の『スローガン』

「安全 確実 迅速」 ～ 誇りを持って～

4. 今年度の方針

- 1、安全確実迅速な業務遂行
- 2、人材の育成と災害対応力の強化
- 3、災害に強いまちづくり

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	安全確実迅速な業務遂行
	取組内容	1、公務災害及び各種事故の根絶 2、PDCAサイクルに基づく各種実戦的訓練の実施 3、心身の健康維持と体力増進
(2)	実現したい成果	人材の育成と災害対応力の強化
	取組内容	1、若年職員の各種資格の取得 2、先進的知識及び技術の習得 3、不祥事とハラスメントの防止
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、消防団との連携強化 2、住宅用火災警報器の普及啓発と消防法令違反の是正

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 安全確実迅速な業務遂行
 - ・危険予知トレーニング、ヒヤリハット事例の検討を毎朝実施し、公務災害、交通事故とも上半期無事故を達成。
 - ・解体が決定している市関連施設を使用した実戦的訓練を5回実施。
 - ・惨事ストレス対策要綱に従い、災害7事案について各出動隊がミーティングを実施、ストレス症状を訴える職員の発生はなし。
- (2) 人材の育成と災害対応力の強化
 - ・梯子車、救助工作車等特殊車両の機関員資格を新たに8名が取得したほか、ドローンパイロット5名が新機体の講習を受講。また、陸上自衛隊化学学校での教育訓練へ職員1名を派遣し知識と技術の習得を図った。
 - ・他県消防本部へ救助隊員を派遣し合同訓練実施により技術の向上を図ったほか、救助技術を競う大会に於いて県大会を突破し、東北大会及び全国大会に出場し技術の向上を図った。
 - ・県内救命センターなどが主催する各セミナーや当市で開催された「秋田県救急隊員セミナー」へ救急隊員が参加し知識の習得を図った。
- (3) 災害に強いまちづくり
 - ・消防団に対し消防操法、水防工法、救命ボート講習などを実施。
 - ・火災鎮火後の警戒活動を消防団と連携し行い、再燃防止を徹底。
 - ・昨年度まで実施した調査結果をもとに住宅用火災警報器未設置世帯へ広報活動を実施。
 - ・年度当初の重大違反対象物4施設のうち、3施設が改善、新たに4施設が増加、現在の重大違反対象物は5施設。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 安全確実迅速な業務遂行
 - ・分署隊の効果的な指揮代行を目指し、指揮隊運用訓練を10月に実施する。
 - ・安全、確実、迅速な業務遂行のため、交通事故を想定した車両破壊訓練を実施するほか、市関連ごみ処理施設との化学災害対応合同訓練を実施する。
- (2) 人材の育成と災害対応力の強化
 - ・A級機関員(CAFSタンク車)4名、B級機関員(ポンプ車)4名、C級機関員(救急車)2名を新たに養成するほか、新規特別救助隊員4名、新規水難救助隊員6名を新たに養成する。また、新任救命士合同訓練を開催し、若年救命士のスキルアップを図る。
 - ・コンプライアンス活動やミーティングにて、不祥事とハラスメントについて考える機会を設け発生を防止する。
- (3) 災害に強いまちづくり
 - ・秋の火災予防運動での駆けつけ放水訓練等の各種訓練や、広報活動等において消防団との連携強化を図る。
 - ・秋の火災予防運動などで、住宅用火災警報器未設置世帯へ訪問し広報活動を実施する。
 - ・重大違反対象物5施設については、違反是正に向け関係者との協議を重ね、予防課と連携し重大違反対象物ゼロを目指す。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 安全確実迅速な業務遂行
 - ・災害現場での指揮隊による安全管理、訓練での安全管理者の配置を徹底し公務災害0件を達成したが、公用車で物損事故が1件発生した。今後さらに安全教育と市内の道路状況把握に努め、次年度の事故ゼロを目指す。
 - ・新規小隊長を対象とした指揮隊運用訓練を2回、交通事故を想定した車両破壊訓練を21回、化学災害を想定した市関連ごみ処理施設との合同訓練を1回、山岳救助事案を想定した訓練を2回など、実戦的訓練を計画し実施した。今後も継続し全職員のスキルアップを図る。また、今年度中に高速道路関係者との合同訓練を計画しており、訓練を通じて外部機関との連携も強化する。
 - ・健康診断の再検査対象職員へ受診を促し全員受診済み。災害対応による惨事ストレス予防に努め、惨事ストレスミーティングを10事案について実施、症状を訴える職員は無かった。今後も適切に対応し、職員の健康を維持する。
- (2) 人材の育成と災害対応力の強化
 - ・車両機関員を延べ22名養成した。特別救助隊員と水難救助隊員の養成訓練を実施し、それぞれ2名と6名が認定となった。認定ならなかった職員も訓練を継続し、次年度の認定を目指す。
 - ・救助技術大会にて全国大会・東北大会出場を達成した。次年度は更に多くの隊の出場と上位入賞を目指し、訓練を継続する。
 - ・救急活動訓練を今年度363回実施。新任救命士教育を兼ねて全救急隊員のスキルアップを図った。
 - ・秋田県救急隊員セミナーが当市で開催され、職員の知識の習得が図られて、次年度は県内開催予定の全国・東北規模のシンポジウムへの参加にて、さらなる資質向上を目指す。
 - ・ドローン国家資格を2名が自主的に取得し、パイロット7名体制となったほか、消防戦術、救助技術、救急医療等専門的な講習を、多数の若年職員が自主的に受講した。習得した知識・技術を共有し職員教育に活かしていく。
 - ・コンプライアンス活動などを継続し、不祥事が発生しない土壌が更に醸成され発生は無かった。ハラスメントも発生は無く、世代間で認識に差異が生じないよう全員で話し合う機会を設け、引き続き防止に努めていく。
- (3) 災害に強いまちづくり
 - ・火災現場活動、災害警戒、行方不明者捜索など、消防団と連携して活動した。また、消防団に対する放水訓練、水防工法、救命ボート講習、車両破壊訓練等を実施した。今後も訓練や支団幹部会議などを通じて連携を強化する。
 - ・火災予防運動、住宅調査等で住宅用火災警報器未設置世帯1,260世帯への広報を実施した。今後は設置年数に基づく機器の更新についても広報を進める。
 - ・重大違反対象物は年度当初の4施設のほか、期中に新たに4施設の違反が判明した。このうち7施設の違反が是正され、現在の違反対象物は1施設となっている。引き続き適切な指導を継続し、違反ゼロの達成を目指す。

令和5年度

消防署 南分署の方針書

組織名	消防署 南分署
所属長名	佐々木 馨

1. 組織の使命(ありたい姿)

誇りとプロ意識を持った安全・確実・迅速な災害対応で市民の信頼と期待に応える。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、現場対応能力向上と人材育成
- 2、各種事故・不祥事の根絶
- 3、災害に強いまちづくり

3. 今年度の『スローガン』

「安全 確実 迅速」 ～ 誇りを持って～

4. 今年度の方針

- 1、現場での安全確実な即応力の向上と人材育成
- 2、公務災害や各種事故・不祥事の根絶
- 3、災害に強いまちづくり

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	現場での安全確実な即応力の向上と人材育成
	取組内容	1、各種訓練の継続による災害対応能力の強化及び、絶対的なチームワークの構築 2、若年職員の育成と中堅職員を対象とした隊長級職員の育成
(2)	実現したい成果	公務災害や各種事故・不祥事の根絶
	取組内容	1、安全管理の徹底と危険予知力の向上による公務災害の根絶 2、公私にわたる無事故、無違反 3、横手市職員としての倫理保持の徹底と市民の目線に立った業務の遂行
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、消防団、地域局との連携強化 2、消防法令違反対象物の是正と住宅用火災警報器の普及啓発 3、施設・資機材の適正な維持管理

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 現場での安全確実な即応力の向上と人材育成
 - ・訓練は中堅職員が隊長級の立ち位置で、若年職員は基本的知識技術の習得のほか、トラブルシューティング等の応用力向上を目的とした教養訓練を計150回実施。
 - ・各種訓練では、全員による声出し安全管理を徹底しながらチームワーク強化を図り、終了後はフィードバックを実施して危険因子の根絶に努めた。
 - ・CAFS装置付消防ポンプ自動車機関員を2名が取得見込み。日常の操作訓練と事故違反ゼロミーティングを継続。
- (2) 公務災害や各種事故・不祥事の根絶
 - ・公務災害根絶を主目標に、毎朝のヒヤリハット、KYT(危険予知訓練)、訓練後、災害終了後の検討会を実施。
 - ・公私に渡り、交通事故違反ゼロを目標に、ヒヤリハット事例検討や他で発生した事案の検討を行い、安全管理能力と危険予知能力向上を図った。
 - ・横手市職員としての自覚を忘れず、市民の目線に立って対応した。また、不祥事根絶対策として、常に関係情報を収集し、全員で防止策についてミーティングを実施した。
- (3) 災害に強いまちづくり
 - ・重大違反対象物の消防法令違反4対象物に対し、是正に向けた指導を実施。3対象物の違反を是正した。残る1対象物も近く是正見込みである。
 - ・住宅用火災警報器設置率向上に向けて、154件の訪問調査を実施し18件の新規設置を確認。
 - ・地区防災訓練、水防講習や救命ボート講習等の各支団合同での訓練を通じ、連携強化を図った。
 - ・資器材については管理簿を基に定期的に管理状況を確認し、適正な整備、保管を実施。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 現場での安全確実な即応力の向上と人材育成
 - ・隊長級の育成と若手職員能力向上を図るため、実災害を想定した基礎訓練及び応用訓練を継続して実施する。
 - ・チームワーク強化を主眼においた活動訓練と、全員による安全管理・危険予知能力向上を図る。
 - ・機関員養成について、C級(普通車)機関員1名を予定。
- (2) 公務災害や各種事故・不祥事の根絶
 - ・公務災害の根絶に向け、全員による安全管理の徹底、危険予知能力の向上を継続する。
 - ・不祥事の根絶に向け、横手市職員としての自覚を堅持し、毎朝のミーティングを継続する。
 - ・無事故、無違反の通年継続を目標に、安全管理事項の確認と徹底を図り、ヒヤリハット事例等の共有を継続する。
- (3) 災害に強いまちづくり
 - ・重大違反対象物の是正に向けた指導を継続し、早期改善を目指すと共に、新たな違反対象物の発生を防止する。
 - ・住宅用火災警報器の設置調査等を通じて普及啓発と防災意識向上を図るとともに、経年の警報器の維持管理についても指導を実施する。
 - ・今後も消防団、地域局との円滑な連絡体制を維持し、一層の連携強化を図る。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 現場での安全確実な即応力の向上と人材育成
 - ・若手職員には基本技術の確実な習得、中堅職員に対しては隊長級としての能力の向上を図ることを目的として、訓練安全計画に基づき260回の訓練を実施し、確かなスキルアップが図れた。今後も、継続して訓練を実施する。
 - ・各種訓練において、特にチームワーク強化を意識して実施している。これらが現場での活動の際の安全確保、迅速、確実かつ最大限の消防力を発揮した有効な活動に繋がっている。今後も一層のチームワーク強化を図っていく。
 - ・機関員の資格取得について、A級CAFS装置付消防ポンプ自動車(大型車)機関員2名取得、C級(普通車)機関員1名取得を実現。取得後も継続的に訓練を行い、車両、資器材の適切な管理運用と事故違反ゼロミーティングを日常化している。
- (2) 公務災害や各種事故・不祥事の根絶
 - ・毎朝の事故防止ミーティング、KYT(危険予知訓練)日常化、災害現場活動及び訓練時における安全管理事項の徹底やヒヤリハット事例の共有を実施することで公務災害の発生はない。
 - ・今後も全員による安全管理の徹底と危険予知力向上を以て公務災害の根絶を図っていく。
 - ・横手市職員としての自覚を常に忘れず、常に市民の目線に立ち、適正な接遇を心掛けることで市民トラブルや苦情等はない。
 - ・また、毎朝の全員ミーティング、コンプライアンス活動等により、細かな変化に対する気付きができるような職場環境を構築することで不祥事の発生を抑制できた。今後も習慣づけて継続していく。
 - ・車両の物損事故の発生を受け、全職員で検証ミーティングを実施し、発生原因と再発防止策の共有を図った。引き続き、全職員で再発防止策を遵守するとともに、各種教育訓練を通じて安全対策、運転技術の向上を図りながら安全、確実、迅速な業務を推進していく。
- (3) 災害に強いまちづくり
 - ・重大違反対象物の消防法令違反について4件の内3件是正、1件についてもほぼ是正工事を完了しており、近く違反解消の見込みである。今後も計画的な検査の実施により、新たな違反対象物の発生を防いでいく。
 - ・住宅用火災警報器の設置率向上に向け、増田地区59世帯実施し7世帯の設置を確認。十文字地区198世帯実施し35世帯の設置を確認。未設置世帯に対する設置指導と、経年の機器に対する維持管理指導を継続する。
 - ・消防団、地域局との連携強化について、消防訓練大会をはじめ、地区防災訓練、水防講習や救命ボート講習等合同での訓練や各種講習会実施等により連携強化が図られた。今後も連絡体制と情報共有を維持して一層の連携強化を図る。

令和5年度

消防署 西分署の方針書

組織名	消防署 西分署
所属長名	佐々木 建夫

1. 組織の使命(ありたい姿)

誇りを持って、安全、確実、迅速に消防職務を遂行する。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、安全確実迅速な業務遂行
- 2、人材の育成
- 3、災害に強いまちづくり

3. 今年度の『スローガン』

「安全 確実 迅速」 ～ 誇りを持って～

4. 今年度の方針

- 1、業務対応能力の向上
- 2、健全で誇りを持った職員の育成
- 3、災害に強いまちづくり

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	業務対応能力の向上
	取組内容	1、安全管理の徹底と危険予知能力向上で公務災害、各種事故の根絶 2、訓練を継続し、判断力、対応力、指導力の向上と育成 3、市民目線での業務遂行
(2)	実現したい成果	健全で誇りを持った職員の育成
	取組内容	1、コンプライアンス達成とハラスメントの防止 2、チームワークの向上、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の励行 3、ストレスの早期発見と対応
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、消防団、地域局、関係機関との連携強化 2、住宅用火災警報器の普及啓発と消防法令違反の是正

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 業務対応能力の向上
 - ・KYT(危険予知訓練)、ヒヤリハット事例や他の消防機関の事故事例を共有、検討するとともに、訓練を継続し判断力・技能を高めた。
 - ・訓練月間予定表に基づき各種訓練を1102回実施。
 - ・訓練前の注意事項伝達、訓練中の安全管理事項伝達、訓練後の検討事項伝達により、公務災害の根絶を図った。
 - ・市民からの問い合わせや、業務上の打ち合わせで円滑な対応ができた。クレーム無し。
- (2) 健全で誇りを持った職員の育成
 - ・ハラスメント防止及びコンプライアンスミーティングをとおして意識の向上を図った。
 - ・職場内でも、やられて嫌なことをしない事とし、貸与品は「折り目のある清潔な服装」とするよう指導した。
 - ・災害帰署時、小隊での惨事ストレスミーティングを行うと共に、声掛けで隊員のストレス把握に努めた。
- (3) 災害に強いまちづくり
 - ・消防訓練大会に向け、雄物川・大森・大雄各地域局との情報共有及び会場整備を実施。
 - ・消防訓練に向け、各地区消防支団へ操法指導を行い、技術向上と相互関係の構築に努めた。
 - ・水防講習会、駆付け放水訓練、救命ボート取り扱い訓練を各地区消防支団と実施。
 - ・住宅用火災警報器未設置住宅の設置確認と普及啓発を行う。昨年度末より設置率向上。
 - ・非特定防火対象物で重大違反が1件発覚。違反是正について関係者と協議対応中。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 業務対応能力の向上
 - ・上期同様、安全管理を重点的に訓練を行い災害に対応する。
 - ・冬季の水利確保と、落雪・埋雪・雪上事故に対応する訓練を行う。
 - ・冬季は危険要因が増加するため、慎重な車両運用をするようヒヤリハットを共有し指導、訓練をする。
- (2) 健全で誇りを持った職員の育成
 - ・コンプライアンスミーティングを継続し、無事故無違反を目指す。
 - ・5Sを励行し、市民に不快感を与えないよう取り組む。
 - ・職員の言動や関係、心身の健康を多方面からチェックし健全な職場環境を維持する。
- (3) 災害に強いまちづくり
 - ・消防支団の放水訓練、救助資機材での車両破壊救出訓練、重要文化財消火訓練等を地域局や住民も含めて行い、関係団体との密な連携体制を向上させる。
 - ・住宅用火災警報器未設置住宅に訪問し、火災時の有効性を引き続き説明し、設置率向上を目指す。
 - ・重大違反防火対象物への是正指導を継続し行う。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 業務対応能力の向上
 - ・危険予知訓練、ヒヤリハット事例や他の消防機関の事故事例を共有することにより、今まで経験ない事象を想定するとともに検討できた。併せて起こりえる事案に対する安全管理思考も向上し、公務災害ゼロを達成した。
 - ・訓練月間予定表に基づき各種訓練を450回実施し、判断力、対応力、指導力の向上と全体の底上げができた。今後も継続して訓練を実施する。
 - ・市民からの要望や相談に対し迅速に対応した。また、市民目線で業務を行うとともに、法令と照らし合わせて可否または最善を提案し理解いただいた。意見を押し付け不快感を与えないよう今後も継続する。
- (2) 健全で誇りを持った職員の育成
 - ・ヒヤリハットやコンプライアンスミーティング、他の管轄での違反事例を話し合い、公務中の無事故無違反及びコンプライアンス違反が無かった。今後も継続して実施する。
 - ・5Sを慣行することにより、職員の意識向上やマナーの向上が見られ職場内を清潔に保つとともに市民目線からも不快感を与えないようにした。
 - ・訓練を重ねチームワークの強化につながった。新年度はチーム編成が変わるので継続して訓練を行う。
 - ・職員の行動や言動、心身の健康を多面的にチェックすることにより健全な職場環境を維持し、惨事ストレス等を抱える職員は確認されない。これら早期発見を図るため職員の動向等に注意する。
- (3) 災害に強いまちづくり
 - ・消防支団の放水訓練、救助資機材での車両破壊救出訓練、水難救助用ボート取り扱い訓練、重要文化財消火訓練、防火座談会、災害活動研修を通じて、住民も含め関係団体との連携体制を向上させた。
 - ・住宅用火災警報器未設置住宅に訪問し火災時の有効性を説明することにより、前年度末より平均2.7ポイントの設置率が向上した。今後も安心安全を目指し設置率向上に努める。
 - ・重大違反防火対象物への是正指導を行い、重大違反ゼロを達成した。

令和5年度

消防署 平鹿分署の方針書

組織名	消防署 平鹿分署
所属長名	佐藤 正樹

1. 組織の使命(ありたい姿)

誇りと意欲を持って職務に当たり、組織力を結集し災害から市民を護る。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、安全確実迅速な業務遂行
- 2、人材の育成
- 3、災害に強いまちづくり

3. 今年度の『スローガン』

「安全 確実 迅速」～誇りを持って～

4. 今年度の方針

- 1、働きやすい執務環境の整備と安全確実迅速な業務遂行
- 2、様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成
- 3、災害に強いまちづくり

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	働きやすい執務環境の整備と安全確実迅速な業務遂行
	取組内容	1、安全管理の徹底による公務災害及び、各種事故の根絶 2、職員間での情報共有徹底と事務報告等の期限厳守 3、職員の心身の健康推進、ハラスメント防止、不祥事の根絶
(2)	実現したい成果	様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成
	取組内容	1、若年職員の教育訓練、新規機関員養成 2、新任救急救命士の養成を中心とした救急隊員の教育訓練 3、各種訓練の継続による安全管理能力と危険予知能力の向上
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、消防団、地域局との連携強化 2、住宅用火災警報器の普及啓発 3、自然水利状況を掌握した消防戦術の構築

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1)働きやすい執務環境の整備と安全確実に迅速な業務遂行
 - ・安全管理を徹底するため、毎日のミーティング時にヒヤリハット事案の検討、危険予知トレーニングを継続実施。上半期交通事故違反0件を達成。
 - ・期限のある調査報告事務の一覧表を作成し、全職員での情報共有を図りチェック体制を強化。
 - ・ハラスメント、不祥事を根絶するため、ミーティング時に全国の事例について検討し、共通認識として共有。
 - ・非番日や休暇を活用し体調管理に努め、長期休暇者・公務災害0件を達成。
- (2)様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成
 - ・若手職員の教育訓練として災害対応訓練を42回実施。
 - ・新規機関員養成として車両運用訓練32回実施。上半期A級機関員1名養成。
 - ・新任救命士のスキルアップを含めた救急隊員訓練を27回実施。
 - ・安全管理の徹底を図るため火災戦術講習の伝達、各種災害想定訓練、救急活動訓練、予防業務全般の座学など実施。
 - ・公用車物損事故防止を図るため、安全運行、車両誘導訓練を継続実施。
- (3)災害に強いまちづくり
 - ・地域局、消防団、民生委員と連携し、住宅用火災警報器設置促進の広報13回実施。
 - ・自然水利の定期確認、公設水利の現状を関係機関と共有し、対応についての連携を強化。
 - ・火災多発期に分署及び消防団による警戒巡回の実施。並びに焼却行為に対する指導を強化。
 - ・毎日の机上出動訓練を実施。出動経路、戦術等の共通認識を強化。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1)働きやすい執務環境の整備と安全確実に迅速な業務遂行
 - ・ヒヤリハット事案の検討、危険予知トレーニングを継続実施。公務災害、交通事故違反0件を目指す。
 - ・PC保存データの整理を行い、業務内容の共有・情報管理を徹底。調査報告等の期限厳守の継続。
 - ・訓練前の資器材、施設の点検、訓練後のフィードバックにて安全管理の徹底と再確認の徹底。
 - ・ハラスメント、不祥事根絶のため、事例の検討と情報共有を継続。
 - ・適正な休暇取得の推進及び、心身の健康バランス管理の徹底。
- (2)様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成
 - ・特別救助隊員養成・・・1名。新規機関員養成・・・B級1名、A級1名。
 - ・今年度の救急合同訓練を控えた職員への指導、及び訓練の充実を図る。
 - ・訓練や火災検討会、災害事例を通し、情報共有、安全管理の徹底を図る。
- (3)災害に強いまちづくり
 - ・住宅用火災警報器設置状況を精査し、効果的な広報にて設置率向上を目指す。
 - ・国営水路取水停止時の対応として、巡邏計画及び戦術の再検討を実施。
 - ・自然水利、公設水利の現状を消防団をはじめとする関係機関と共有。冬季間の水利確保等更なる連携強化を図る。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1)働きやすい執務環境の整備と安全確実に迅速な業務遂行
 - ・ヒヤリハット事案の検討、危険予知トレーニングを継続することで公務災害、交通事故違反0件を達成。今後も継続する。
 - ・安全運行、車両誘導訓練、交通事故防止のミーティングを強化し再発防止が図られた。今後も安全確実に業務を遂行する。
 - ・PC保存データの整理を行い情報の管理と共有を徹底し、安全で迅速な作業が図られた。
 - ・安全管理の徹底と再確認の徹底を図り、訓練中や現場活動における安全管理の意識向上が認められた。
 - ・ハラスメント、不祥事根絶のため、事例の検討と情報共有及び定期的なミーティングを継続。

個々に公務員としての自覚の向上が認められハラスメント、不祥事等は認められなかった。今後も働きやすい環境の整備に努めるとともに不祥事等の根絶を図る。

 - ・適正な休暇取得と体調管理の徹底により、他署からの補充勤務が減少するとともに、体調不良による長期休暇者の防止が図られた。今後も継続する。
- (2)様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成
 - ・特別救助隊員養成として、今年度1名が資格認定研修を受講し認定となる。今後も更なる知識技術の向上に向け訓練指導を継続する。
 - ・新規機関員養成としてA級(大型車)機関員2名、B級(中型車)機関員1名が認定。今後も認定者への適正な車両運用についての訓練指導を継続するとともに、新規養成者に向けての指導教育を実施する。
 - ・今年度、救急救命士1名が新任救命士総合想定訓練を修了予定。救急現場活動におけるスキルアップが図られた。また、救急隊員平準化訓練の継続により、所属職員全員のスキルアップが図られた。今後も継続して実施する。
 - ・訓練や火災検討会・災害事例を通し、特に火災建物への屋内進入時における隊員間の連携や情報共有、安全管理の徹底を図った。今後も装備の確認と共に継続する必要がある。
- (3)災害に強いまちづくり
 - ・住宅用火災警報器の設置率向上に向け調査数215件、設置推進を図るためチラシ配布による広報を実施。上半期の災害多数発生に伴い調査数は減少したものの、今後も住宅調査と合わせて計画的に設置調査及び指導、広報活動を実施する必要がある。
 - ・国営水路取水停止時の対応として、巡邏計画及び戦術の再検証を実施した。今後も継続し実施する。
 - ・今冬は降雪積雪量が少なく公設水利確保は比較的容易ではあったが、通年関係機関と連携し水利確保に努める。
 - ・火災多発期に消防団との連携による警戒巡回の実施及び焼却行為に対する指導を強化したものの、昨年度より火災発生件数が倍増し9件、死傷者も4名発生。今後も消防団をはじめとする関係機関と連携し、市民に対し防災指導広報等を強化する必要がある。

令和5年度

消防署 山内分署の方針書

組織名	消防署 山内分署
所属長名	齊藤 公治

1. 組織の使命(ありたい姿)

誇りとプロ意識を持って災害に立ち向かい市民を護る。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、人材の育成
- 2、安全確実な業務遂行
- 3、快適な職場環境づくり

3. 今年度の『スローガン』

「安全 確実 迅速」 ～ 誇りを持って～

4. 今年度の方針

- 1、現場力向上に向けた人材の育成
- 2、安全確実な業務の遂行
- 3、職場環境の更なる改善

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	現場力向上に向けた人材の育成
	取組内容	1、職階に応じた教育訓練による人材育成 2、消防隊員並びに救急隊員としての先進的知識と技術の習得
(2)	実現したい成果	安全確実な業務の遂行
	取組内容	1、安全管理の徹底と危険予知能力向上で公務災害を根絶 2、機関員の養成と、安全、確実な車両運用の徹底
(3)	実現したい成果	職場環境の更なる改善
	取組内容	1、ワークライフバランスの実現と健康管理の推進 2、風通しが良く活気のある職場環境づくり(ハラスメントの防止・挨拶の励行・整理整頓) 3、職場環境の改善を図るとともに、公務員としての自覚の醸成を促す

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1)現場力向上に向けた人材の育成
 - ・中堅職員には隊長級としての役割と自覚の醸成、また若年職員には基本的知識と技術の習得を目的とし、教養訓練を計129回実施した。
 - ・関係機関の会報や広報誌、また時にはインターネットを活用するなどし、最新の情報を取得して知識と技術の習得を行った。
- (2)安全確実な業務の遂行
 - ・公務災害根絶のため毎朝のミーティングにて、ヒヤリハット事案などの意見交換をするとともに、災害出動後は検討会を実施し情報共有に努めた。
 - ・各種教養訓練において中堅職員を中心に、若年職員に対し車両運用はもとより資機材の使用に至るまで、安全確実な運用及び操作方法の指導を行った。
- (3)職場環境の更なる改善
 - ・毎朝体調チェックを行うとともに、健康診断および再検査の自発的な受診をすべく指導教育を行った。また年次休暇については積極的に取得を促し、職場全体で個々の健康管理に注意を払うよう指導した。
 - ・日常の会話を大切に、上司部下の隔たり無く会話の出来る職場環境を目指し、上司自らが積極的に声掛けをするとともに、挨拶の励行や明るく清潔な職場づくりを率先して行うよう指導した。
 - ・「市民満足度の向上は、職員意識と組織の改善から」を念頭に良好な職場環境の構築を目指すとともに、教養訓練においては市民目線に立った接遇と市民対応の訓練を実施した。また、不祥事根絶対策として常に関係情報を収集し、防止策についてのミーティングを通じ、公務員としての自覚の醸成を図った。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1)現場力向上に向けた人材の育成
 - ・各種訓練を継続し実施するとともに、更なるスキルの向上を目指し、不測の事態やトラブル発生時にも対応できるよう応用訓練を実施する。
 - ・訓練の種類を増やし活動要領に幅を持たせ、円滑、迅速確実な現場活動を図る。
- (2)安全確実な業務の遂行
 - ・ヒヤリハットや危険予知訓練を継続実施し、隊員全員の安全管理の徹底と危険予知力向上を図り、公務災害ゼロを継続する。また新聞やテレビ、ネットなどを基に、実際の事故事例に触れ、より身近な問題として感じさせるべく、その「原因」と「結果」について全員で検証する。
 - ・車両や資機材の点検管理を徹底し、また操作方法を熟知することで、小さな異変にも気づく力を身に付けさせる。
- (3)職場環境の更なる改善
 - ・個々の健康管理に対し職場全体で注意を払うことで、個人の心身の健康維持に繋げ、健全な職場環境の構築を継続する。
 - ・働きやすい職場環境づくりの取り組みを職員一丸となって継続することで、明るく清潔な職場の構築と、業務の更なる効率化を図る。
 - ・引き続き接遇対応訓練を実施するとともに、関係情報の収集や毎月のコンプライアンス活動を通じて公務員としての自覚の醸成を図り、不祥事ゼロを継続する。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1)現場力向上に向けた人材の育成
 - ・複雑多様化する現場活動に備え個々のスキルアップを念頭に各種訓練を継続実施するとともに、過去の事案を教訓としてトラブル回避術を全員で共有した。
 - ・山間部特有の地域事情に配慮した災害対応訓練を反復実施することで、知識や技術を会得した。今後もスペシャリストとしての自覚を持ち、継続した訓練を重ねる。
- (2)安全確実な業務の遂行
 - ・毎日のミーティング等におけるヒヤリハットの意見交換と、また災害出動後の検討会を欠かさず実施することで、公務災害ゼロを達成できた。それぞれの事案において「結果」の共有で終えることなく、その「原因」についても全員で議論することで、個々にメモリーインプットされたものと感じる。
 - ・中堅職員の指導監督の元、車両や資機材の点検管理を徹底することで、若年職員の知識の習得はもとより、指導監督者本人の再認識が可能となり、より安全確実に現場活動を行うことへの自信に繋がった。
- (3)職場環境の更なる改善
 - ・再検査の受診率100%。チームとして互いの健康管理に気を配ることが各々の健康維持に繋がったものと感じる。また種々の休暇取得についてもそれぞれが十分に取得できており、チームであるがゆえ、互いが気を使いながらも、可能な限り取得しやすい職場環境を構築できた成果と感じている。
 - ・上司による積極的な声掛けの励行により、上下の隔たり無く皆が働きやすい職場環境を築き上げたことで、業務の効率化が図られた。
 - ・毎月のコンプライアンス活動に限らず、日ごろからメディア等で発信される情報を話題にし対話することで、公務員として、ひいては社会人としての自覚が醸成され、交通違反や不祥事ゼロが達成された。引き続き実施していきたい。